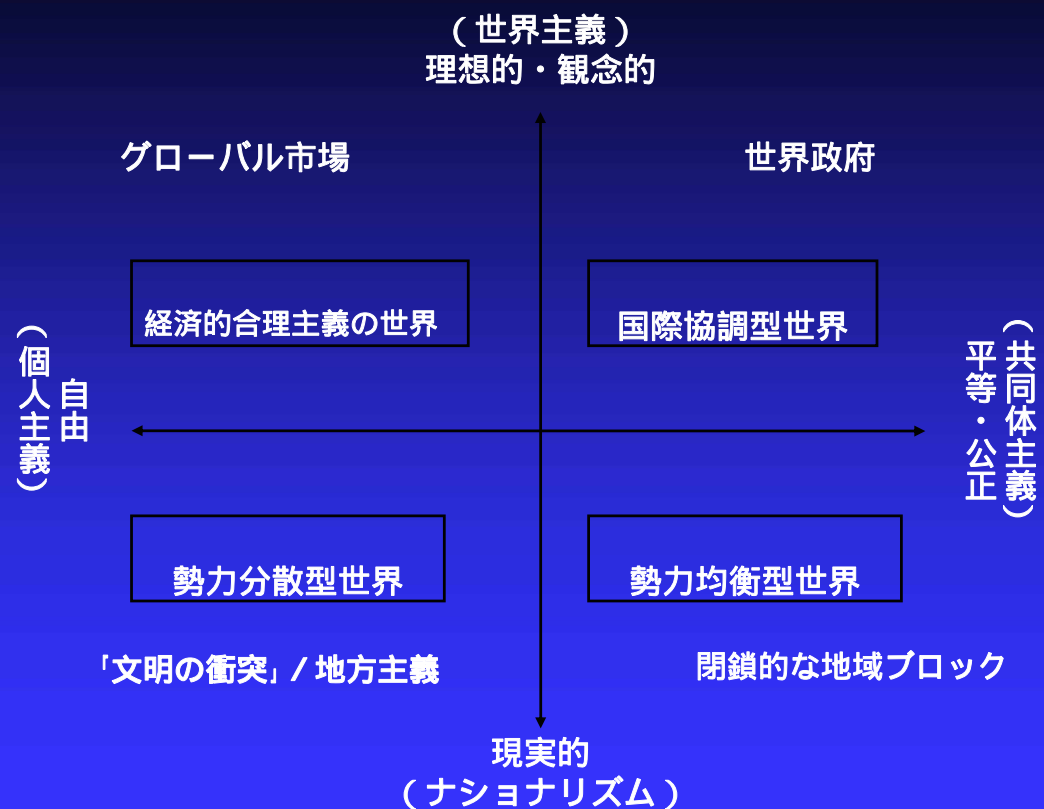


4. 超長期ビジョン：地球環境ガバナンスの諸原則・中心概念・行動計画および未来像

- 環境と開発に関するリオ宣言
- 持続可能な開発
 - ◆ 環境、社会そして経済の調和
 - ◆ 「アジェンダ21」

図-1: 異なる思想的立場や価値観と国際政治変動パラダイム



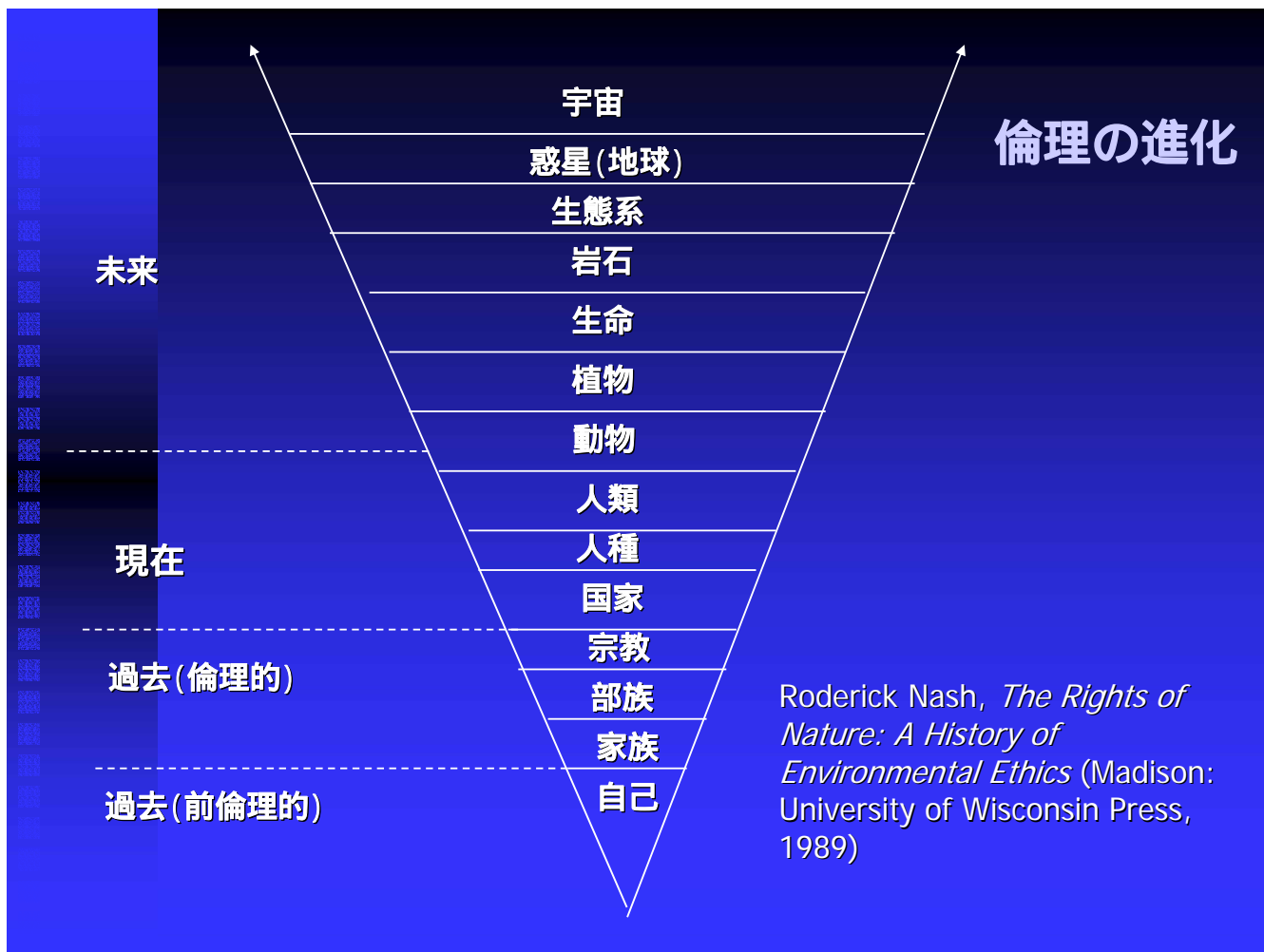
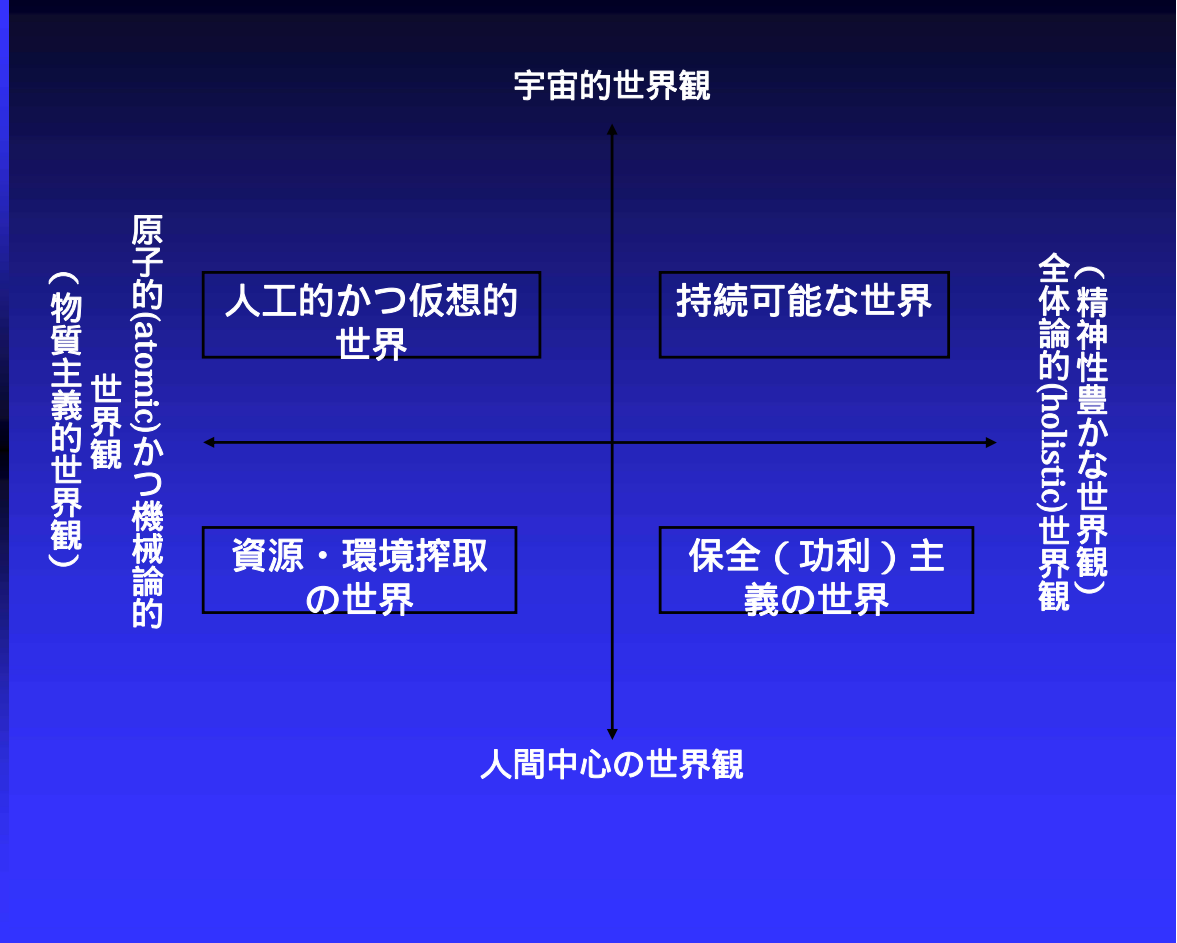


図-2: 異なる世界観と世界の持続可能性



5. 地球環境ガバナンスの構造と課題

- 地球環境ガバナンスとUNEP
- 世界環境機関 (WEO)あるいは地球環境機関 (GEO)の設立の是非

以下の議論に関しては、主に、Fran Biermann and Steffen Bauer eds., *A World Environment Organization: Solution or Threat for Effective International Environmental Governance?* (Aldershot: Ashgate, 2005) を参照。

5.1 地球環境ガバナンスにおけるUNEPの役割と成果

- UNEPは、監視、調整そして触媒作用を及ぼす機関と
いった漠然とした権限をともなった国連総会の補助機関
- UNEPの役割と成果
 - ◆ 環境情報とデータベースの構築
 - ◆ オゾン層の保護、生物多様性の保全、砂漠化防止のための国際条約交渉の調整役
 - ◆ 世界気象機関(WMO)と共に気候変動問題の論争を進展させた(含むIPCCの設立)
 - ◆ 国際自然保護連合(IUCN: World Conservation Union)とともに世界保全戦略を策定
 - ◆ 地域の海の環境保護
 - ◆ 地球環境監視システム(Global Environmental Monitoring System: GEMS)の維持
 - ◆ 東南アジアの「もや」(haze)の問題などの特定の環境危機に対応
 - ◆ 多くの環境協定の事務局支援を提供
 - ◆ *The Global Environment Outlook* (『地球環境見通し』)という報告書作成

5.1-2 地球環境ガバナンスとUNEP: 多くの問題点

- UNEPは、一般的な政治そして財政的サポートの欠如を克服できていない。
- UNEPの最初の20年間の全予算は10億ドル以下
 - ◆ UNEPの年間予算は他の国連機関より少なく、いくつかの大きな環境NGOよりも少ない。
- UNEPのスタッフは各国政府の職員数より少なく、300から400。
- 本部がケニアのナイロビにあり、他の環境関連の機関との連携をはかり難い。
 - ◆ CSDの事務局はニューヨーク
 - ◆ GEFはワシントンD.C.
 - ◆ 地球環境問題の条約事務局は世界各地に散在: 気候変動条約と砂漠対処条約事務局はドイツのボン; 有害廃棄物のバーゼル条約とCITESはジュネーブなど